

2014 年度事業報告

「分かち合うくらし」—分かち合う経験・こころ・未来

2014 年度、第四次 3 カ年計画の 3 年目、世界情勢が不安定な方向に進む中、海外の支援地で「経験・こころ・未来」を分かち合いながら、支援プログラムを進めてきました。新しく始まったカンボジアの DV/レイプ被害者支援プログラムは、シェルターでのインタビューを実施し、状況の厳しさや辛い体験を乗り越えることの難しさをより深く知ることから始めました。カンボジア・アン村では自然染色のスカーフの製作を実施しました。今後はフェアトレードのパートナーとしてつながっていきます。8 年目となったネパール「幸せ分かち合いムーブメント」では、現地調査をおこない、次の中期計画を村人と共に策定する道筋をつけました。ラオスプログラムはこれまでの活動評価をおこない、継続を決定しました。

国内では、外国人に対する排外的な動きが顕著な状況に対して、これまでつながりのある団体と共に、多文化共生のイベントや連続学習会を継続し、多くの参加者を得ました。地球の木講座は再びアーサー・ビナードさんを招き、自分たちの言葉で表現し発言していくことの大切さを学びました。「しあわせ分かち合いクラフト」の販売と地球の木の活動紹介をおこなう場を東京・千葉にも拡げ、市民活動センターなど多様な場所で、アピールすることができました。

活動を活発に行うには、安定した組織運営が欠かせません。会員の減少により活動資金も減少しているため、関係団体に依頼して「書き損じはがき」の募集をおこなうなど、これまでのネットワークなど駆使し、多様な資金獲得の方法を模索しています。担い手をどう確保していくかも大きな問題です。県の市民活動支援プログラムを活用し、ボランティアの増員を目指す「ボランティア Get 作戦」をおこないました。ボランティア登録者数が増え、イベントや「書き損じはがき」の仕分け作業などにも積極的に携わってもらうことができました。

■■■■■■■■■■ 自立支援プログラム ■■■■■■■■■■

I. 自立支援プログラム

(アジアにおける社会的に困難な境遇にある人々に対する生活基盤確立のための自立支援事業)

●ネパール● 「幸せ分かち合いムーブメント」の輪を広げる

プログラム名	幸せ分かち合いムーブメント
支 援 地	ネパール カブレパランチョーク郡 (マンガルタール行政村・カルパチョーク行政村)
現地パートナー	SAGUN (サグン)
事 業 費 計	1,244,385 円

ネパールが王制を廃止し、連邦民主共和制に移行して 7 年経ったが、政党間の合意が得られないため、いまだ憲法を制定できず、政局は混迷を極めている。国内で仕事を得ることが難しいため、出稼ぎや留学で多くの若者が海外に流出している。ネパールの GDP の 23.8%が海外からの送金となっており、日本への移住者も急激に増えている。今後村の過疎化が深刻な問題となっていくことが予想される。少数民族が多く暮らす山あいの村で、公立高校の教育を充実させ、村人たちが地域社会に参加し、様々な決定に関わることができるような仕組みづくりを行ってきた。このような取り組みは、人口流出を可能な限り抑え、開発の担い手を育成するために必要な活動である。

2014 年度はマンガルトール村の各地域で住民集会を持ち、今後の計画について話しあった。各地域で自分たちの持つよいところを確認しあい、今後必要とされることを話し合うことができた。

●支援内容

<教育支援>

- ・高校進学、継続のための奨学金の支給 16 名（11 年生、12 年生）の学費を支援した。
- ・教師トレーニング（2014 年 4/13~14）地域の 16 校から 27 名が参加。参加型の教育法など。
- ・作文コンテストを実施（2015 年 3/17）。テーマ「現代社会におけるコミュニケーションと技術革新の影響」
- ・マンガルトール高校、ラジャバス中学校など 3 つの図書室に教科書、参考書、読み物を補充した。
- ・2 村の 3 つの小学校の 3 人の新任教師の給料をサポートし、教授法の助言を行った。

<生活改善支援>

- ・収入創出：マンガルトール村とカルパチョーク村で合わせて 5 つのグループ 48 人が野菜づくりに取り組んだ。
- ・植林：ピンタリ地区に向かう道路沿いに植林。家畜に食べられないよう、保護ネットで囲む。（7 月）

<ムーブメント推進>

- ・季刊誌「ロシ・ラハール」17~18 号が発行された。記事は、母語、教育、開発についてなど
- ・「マンガルトールともだちキャンペーン」を継続。横浜隼人高校の生徒たちからのメッセージも届けた。

●国内での活動

- ・現地調査（9 月）中期計画作成のため、マンガルトール村 5 地域で集会を開いた。調査報告会（11 月）
- ・ネパール・スタディツアーは実施できなかった。昨年 2 月のスタディツアーの報告会を実施（4 月）
- ・「ロシ・ラハールを読む会」を毎月開催し、現地の情報を共有した。
- ・村だより 5 号を発行し、寄付を呼びかけた。

●ラオス ● 村人の森を守る権利と生活改善の応援をする

プログラム名	ラオスの森林と農業プログラム
支 援 地	ラオス サワナケート県（アサポン郡・ピン郡）
現地パートナー	日本国際ボランティアセンター（JVC）・ラオス、サワナケート県農林局
事 業 費 計	522,022 円

サワナケート県は、南北、東西の幹線道路が交差する利便性から海外企業の進出が多く、土地収用をめぐって住民との軋轢も起こっている。特に支援地のアサポン郡、ピン郡ではベトナム、インド、タイなどの植林企業の進出が目立ち、既に多くの企業が土地を取得している。これまで森の恵みに支えられてきた村人にとって森を失うことは、暮らしが成り立たなくなることを意味する。村人の安定的な食糧確保を目指して、村人主体の自然資源の持続的管理や農業技術の導入、現金収入の確保などの支援を引き続きおこなっている。

2014 年度、JVC は活動の継続に加えて、プロジェクトの第 2 フェーズ（2013 年 2 月~2016 年 2 月）における中間評価を行った。活動ひとつひとつについて、達成度や持続性、妥当性、参加度、公正性など 8 つの観点からの評価結果をだし、前半の活動で達成されたこと、達成できなかったことを確認し、その理由も調査して後半来年度以降の活動にいかしていく。地球の木も「評価」の重要性を学び、より深くプロジェクトを理解することができた。

地球の木でも 2014 年度が 3 年ごとのプログラム見直しの年となり、開始からの 6 年を振り返った。その中で JVC のプロジェクトが村人の自立へ向けて意義ある支援であることを再確認し、今後 3 年間の支援継続を決定した。

●支援内容（JVC ラオスプロジェクト）

- ・住民参加の土地利用計画(PLUP)を実施した。担当スタッフの離職で予定通り進まなかった。
- ・意識啓発ドラマ・人形劇を村で上演し、好評を得た。
- ・魚保護区設置により魚が増え、他の村からも要望がだされている
- ・森に関する法律などのイラスト調法律カレンダーを引き続き制作し、村で配布して研修を行った。
- ・稲の幼苗 1 本植え（SRI）は対象村に多いブル族のモデル農家がないこともあって、普及が遅れている。ラタンの植栽は、今年は 90%が発芽し、順調に育っている。
- ・米銀行は 2 村で新規に設置。8 村の米銀行のフォローアップを行った。
- ・牛銀行は 13 年度下半期から開始。順調に進み、新たに関心を持つ農家が増えてきている。
- ・ほぼ予定通り深井戸大 5 基、深井戸小 4 基、計 9 基を掘削した。
- ・スタッフ向けに、村人とのコミュニケーションに関する研修を行った。

●国内での活動

- ・学習会「インドシナ半島の歴史」（7/12）、「日本の森のはなし」（9/25）
- ・JVC 現地駐在員報告会（10/7）
- ・ラオスお話し会（ラオスについて理解を深める）（12/6）
- ・「開発」をテーマにしたワークショップを検討した。

●カンボジア ● クメールシルクが支える暮らし～伝統と環境を守りながら～

プログラム名	クメールシルクプログラム
支 援 地	カンボジア タケオ州（アン村）
現地パートナー	アン村生産者
事業費計	154,531 円

カンボジアでは、首都プノンペンを中心として、農村地域でも住民の経済格差はどんどん広がり、「お金がものを言う社会」となってきた。プノンペン市内の土地の高騰、そして海外からの投資の増加で、大規模な縫製工場が次々と郊外に建設されている。タケオへ向かう国道 2 号線沿いにも大規模な縫製工場が、若い女性たちを中心に農村の働き手が流出し、伝統的な「織物村」の生活が変わってきている。2014 年度も、タケオの「織物村」アン村で、環境にやさしく、伝統的な織物復活の要素も持つ自然染色の織物生産に向けて、染色やデザインのアドバイスなどをおこなった。支援も 3 年目となり、ラック（赤）以外に色のバリエーションも増えるなど、自然染色の製品づくりも一定の道筋をつけたので、プログラムとしての支援は終了し、今後はフェアトレードのパートナーとしてつながっていく。

●支援内容

- ・自然染色の製品開発（蓮、チュンブー、とうがんとバナナの葉などを使った染色）
- ・専門家を同行して、染色と伝統的なかすり柄のデザインのアドバイス
- ・アン村での水（土壌汚染等）についての聞き取り

●国内での活動

- ・地球の木カフェ「アジアの女性の暮らし」（5/23 湘南台プラザ）
- ・千葉アーシアン講座「クメールシルクプログラムと幸せ分かち合いクラフト」（7/11）

●カンボジア（新規）● 折れない心で立ち直る女性たちを応援

プログラム名	カンボジア DV/レイプ被害者支援
支 援 地	カンボジア プノンペン、シェムリアップ
現地パートナー	Cambodia Women's Crisis Center (CWCC)
事業費計	376,970 円

目覚ましい経済発展をとげるカンボジアで、広がる経済格差の中で、家庭内での暴力や集団レイプなどの被害にあう女性たちが後を絶たない。このような状況に対して、現地パートナーの CWCC と共に、被害者の自立支援とカンボジア社会への啓蒙活動を進めている。CWCC では、手の届きにくい地方のシェルターや事務所の設立に力を入れている。地方事務所が増えたことで、地方密着型のプロジェクトが増えてきている。しかし、都市部と地方の経済事情、文化背景は大きな差があるため、まだまだ時間をかけたコミュニケーションが必要である。代表が警察、司法へのプログラムに多く参加し、女性への暴力、レイプなどの防止、収賄などへの厳しい対応を呼びかけている。

地球の木の活動としては、3 月に現地のシェルターを訪問し、広報用のビデオ撮影をおこなった。2015 年度からの積極的広報、資金集めに活用していく。

●支援内容

- ・保護シェルター（6ヶ月間の生活費、識字教室、職業トレーニング含む）
- ・心のサポート（カウンセリング）
- ・法的サポート（訴訟のためのサポート、証拠集め）
- ・小規模事業開始の支援、雇用の創出

●国内での活動

- ・地球の木カフェでのカンボジアの現状を伝える報告会の実施（3/24）
- ・支援者たちとの訪問ツアーは実施できなかった

■■■■■■■ 緊急支援・交易・社会教育等に関わる事業 ■■■■■■■

II. 緊急支援

（世界各国の自然災害・社会的危機等による被災民に対する緊急支援事業）

■東日本大震災緊急・復興支援

◎NPO 法人「Tree Seed」支援

- ・気仙沼現地訪問（8/4、3/15～17）を実施し、活動報告、計画についてアドバイス等をおこなった。
- ・「被災地と全国をつなぐインターネット放送」の環境整備、技術支援をおこなった。
- ・「気仙沼支援地訪問バスツアー」を実施（10/22、23 参加者 13 名）

◎東日本大震災復興支援まつり（11/9）に気仙沼から 2 名を招聘

III. 交易事業

（相互の自立に役立つ生産物の交易）

- ・イベントやお祭りなどで地球の木の活動を紹介しながら「幸せ分かち合いクラフト」の販売をした。
- ・カンボジアの生産者支援団体と協力して、地球の木オリジナルフェアトレード品の生産、販売をした。
- ・生活クラブ（共同購入、デポー販売 23 回）、福祉クラブの協力を得て、販売をおこなった。

- ・東京（生活クラブデポー）、千葉（アーシアン）など新たな販売先を開拓した。
- ・元町で3か月間限定のフェアトレードショップを共同で開店。多くのボランティアの参加協力を得て運営をおこなった。

IV. 社会教育事業

（相互理解を深めるための交流ならびに国際協力推進のための社会教育事業）

■ 出前講座

- ・出前講座を実施した。（中学校3校、高校1校、地域2回（計6回））
- ・地域のイベントなどでワークショップをおこなった。
- ・出前講座の新しいリーフレットを作成し（1,000部）、区役所や市民活動センター、国際交流ラウンジ等に配布した。
- ・新しいワークショップ『未来の食卓』を完成し実施した。

■ 地球市民教育

- ・アーサー・ビナードさんを講師として地球の木講座『日本語をとりもどす』を開催した。（2/15 参加者83名）
- ・田島征三さんと「ラオス森の絵本」（仮称）についての協議を継続した。
- ・国内スタディツアー（藤野）は、2015年4月に延期となった。

■ 多文化共生（参加したイベント、学習会）

- ・あーすフェスタかながわ2014（企画から参加）
- ・「第14回南北코리아と日本のともだち展」（実行委員として絵画展開催に協力）
- ・外国人学校の子どものための絵画展（実行委員として協力）
- ・連続学習会「かながわ『共に生きる』学習会」を実施した。（7/26、10/12）

■ 地域活動

- ・「たうんチーム連絡会」を毎月行い、勉強会や情報交換を活発におこなった。
- ・地域イベントにも積極的に参加し、仲間づくり、活動アピールを行った。
- ・地球の木の支援地クイズを作成。イベントでクイズを使い、地球の木の活動紹介をした。
- ・「幸せ分かち合いクラフト」「DV/レイプ被害者支援」の活動紹介ポスターを作成した。
- ・イベントなどに参加し、地球の木の活動紹介をおこなった。

山手商店街のおまつり（4/13）、鎌倉市民活動の日フェスタ（5/18~20）、かながわ湊フェスタ（5/25）、ふれあい交流広場まつり（7/8~10）、平塚国際交流デー（8/2）、ひらつか市民活動センターまつり（9/28）、いそご国際交流フェスタ（10/11）、かまくら国際交流フェスティバル（10/13）

■ その他販売

- ・「国際協力カレンダー」の販売をおこなった。（生活クラブ生協、福祉クラブ生協の協力を得て730部販売）
- ・開発教育教材「マジカルバナナv3」の販売をおこなった。（本体35冊、CD-ROM14枚、カード21枚を販売）
- ・イベントで活動のアピールをしながら食販などをおこなった。（グローバルフェスタ、あーすフェスタでのちぢみ販売など）

V. 広報・政策提言などの事業

（社会教育事業に関して、機関誌等の広報活動ならびにそれらを通して行う政策提言などの事業）

■ 広報活動

- ・会報誌を4回発行した。
- ・ホームページ、Facebookでの情報発信をおこなった。

■ 政策提言

- ・「認定NPO法人の優遇税制に係る現行制度の存続」に関する円卓会議に出席。要望書提出へとつながった。
- ・『「ODA大綱見直しに関する有識者懇談会」報告書に対するNGO声明』について賛同団体となった。

VI. ネットワーク活動

(地球の木の目的にかなう事業を行っている団体との情報交換および協力事業)

【理事・運営委員などとして運営に参加する団体】

理 事：横浜 NGO 連絡会 (YNN)、かながわ国際交流財団 (KIF)、かながわ生き生き市民基金

運営委員：フォーラム・アソシエ、かながわ復興支援ネットワーク(YNN)

委 員：キララ賞選考委員会

実行委員：「あーすフェスタかながわ 2014」実行委員会、「南北 코리아 と日本のともだち展」実行委員会、
「東日本大震災 復興支援まつり」実行委員会、「外国人学校の子もたちの絵画展」実行委員会

そ の 他：KOREA こどもキャンペーン (呼びかけ団体)、あーすネット幹事会 (幹事)、

東日本大震災復興・支援ネットワークかながわ (幹事)、ビビンバネット (参加団体)

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 組織運営など ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- ・かめのり財団「かめのり賞」を受賞 (活動奨励金 500,000 円)
- ・会員への呼びかけに加えて生活クラブ生協に協力を依頼し「書き損じはがき」の募集をおこなった。(約 150 件)
- ・県の「ボランティア団体成長支援事業」を活用し、ボランティアを増やす取り組みをおこなった。

地球の木会員数 (2015 年 3 月末)
正 会 員: 155 名
サポート会員: 582 名 (内団体会員 5)
合 計: 737 名

2014 年度入退会者数と主な退会理由
入 会 者: 3 名
退 会 者: 32 名
・活動整理 ・経済的理由 ・病気、高齢のためなど